

令和5年度 全国学力・学習状況調査の概要

学力調査の結果（中学校）

平均正答率

教科	国語	数学	英語
藤井寺市	66	45	41
大阪府	68.0	49.9	45.3
全国	69.8	51.0	45.6

※平成29年度から市の表示は整数

※R2は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止。

※H30は、国語、数学のA問題、B問題の平均値で表示

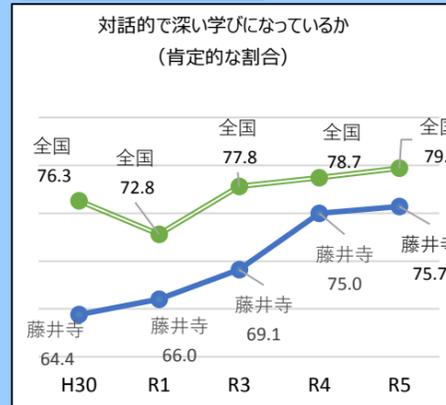
全体的な傾向

- ◆平均正答率は、国語・数学に加え、4年ぶりに実施された英語も全国・府平均を下回った。
- ◆国語については、全国・府水準に近づきつつあるが、数学・英語については、課題が見られる。
- ◆対話的な学び、ICT活用、アウトプットする力、主体的に学ぶは改善傾向。
- ◆自己肯定感は改善傾向にあるが、朝食の喫食率は昨年度より減少。
- ◆平日の家庭学習を全くしない生徒と読書習慣については継続課題。

生徒質問紙調査の結果（中学校）

※「ICT活用」は、R1からの調査項目

対話的な学び



自己肯定感

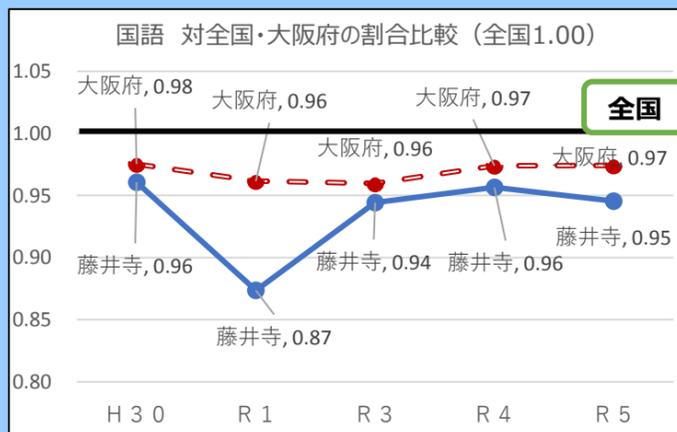
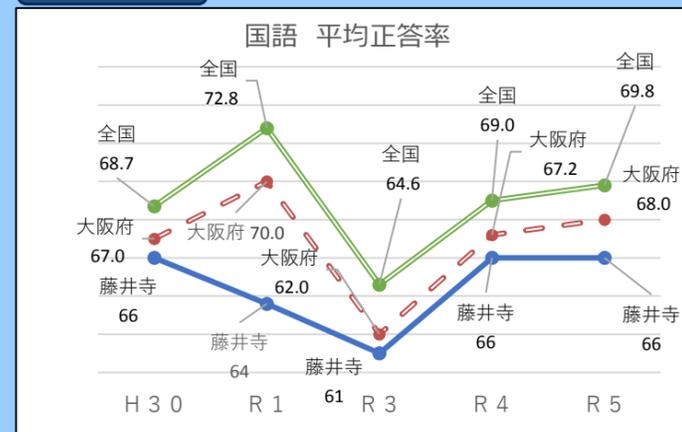


家庭学習



「全体の平均正答率」と「対全国との割合比較」

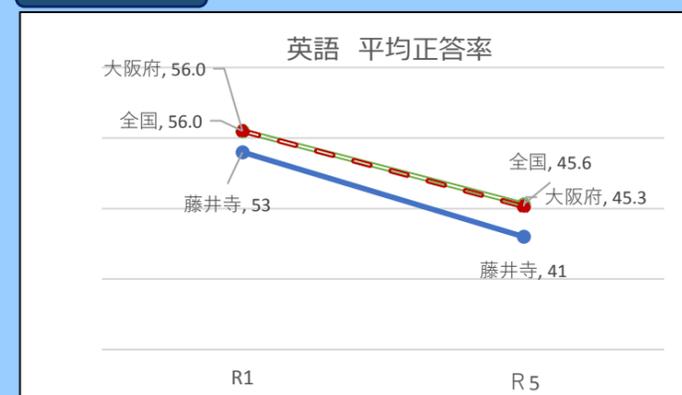
国語



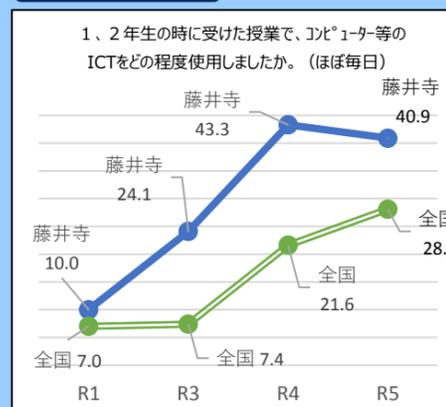
数学



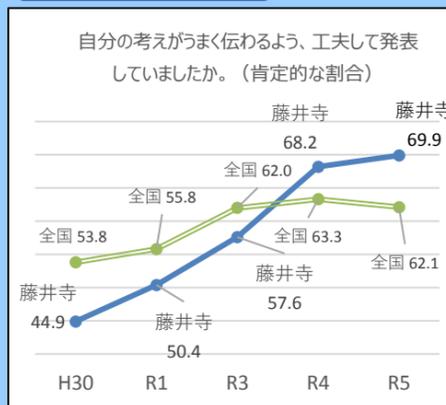
英語



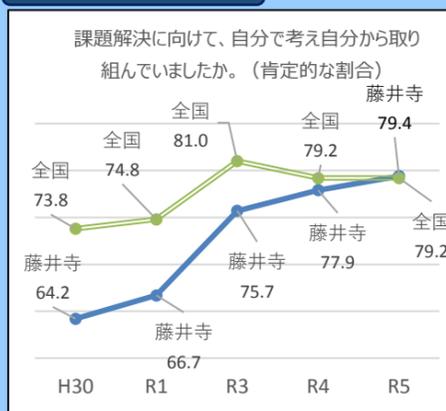
ICT活用



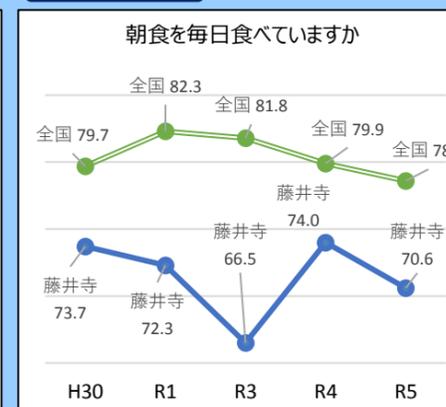
アウトプットする力



主体的に学ぶ力



朝食



今年度の結果分析と取り組みについて

質問紙調査から、近年課題であった「対話的で深い学びになっているか」の項目について改善傾向にあり、各校において教員による効果的な授業改善が進んでいます。また、「ICTの活用」については、「ほぼ毎日」と回答した生徒の割合は微減したものの、依然全国を大きく上回っており、授業での積極的な活用が見られます。これらの成果として、本市の学力向上施策の課題・指標としている「アウトプットする力」や「主体的に学ぶ力」については、この間改善が続き、今年度については肯定的な回答が全国を上回りました。また、自己肯定感についても改善傾向で、これらの項目は学力との相関関係にあり、引き続き取り組みを続けることにより学力向上につながると考えています。

昨年度急増した「平日に家庭学習を全くしない」生徒の割合については、全国が引き続き増加しているのに対して、本市の生徒の割合は微減しました。しかしながら、全国と比べると割合は高く、家庭での主体的な学び方の提示方法や、子どもたちが自ら課題を設定し、情報収集や分析をするような探究的な課題を提示することも必要だと考えています。また、「読書を全くしない」生徒の割合も継続して課題がみられ、昨年度改善がみられた「朝食の喫食率」も減少しました。学校図書館の充実等を含めて、引き続き学校と家庭が連携した取り組みが必要であると考えます。

今年度の取り組みとしては、市内1中学校を「学力」の大阪府モデル校として推進しております。モデル校事業は、教員の授業改善にも大きく寄与しており、好事例を市内各校へ公開しています。個に応じた学びや協働的な学びの充実に向けて、例えば、1人1台タブレットPCの効果的な活用や英語を使う機会の充実など、さらなる授業改善を推進していきます。また、各校において今回の調査結果からみられた成果と課題をふまえた取り組みを進めるとともに、子どもたちがさらに主体的に学ぶ姿をめざして、その取り組みを積極的に支援していきます。